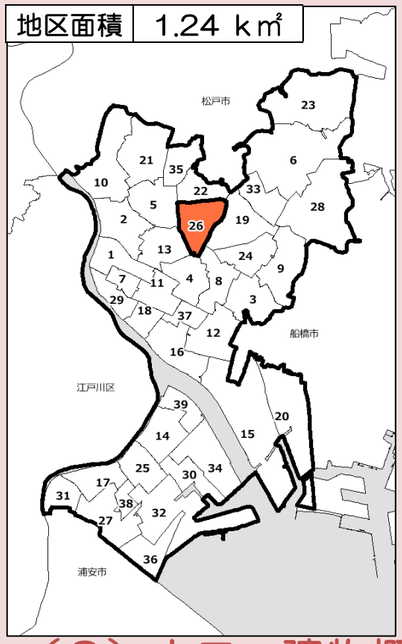
# 26 百合台小学校区



## （1）位置

地区面積 1.24 ㎢




## （2）地区概況

### ◆位置

百合台小学校区は市の中央よりやや北部に位置し、地区の西側は春木川に面しています。また、地区内に真間川が横断しています。

### ◆地形・土地利用

地形は、平坦な台地や氾濫平野で構成されています。
地区の東側は第一種低層住居専用地域等の住宅地となっており、戸建て住宅等が建ち並んでいます。

### ◆都市基盤

地区内の北側の一部は、土地区画整理事業により整備されています。地区の東側には、南北にかけて県道51号線が通っています。
また、地区内にはJR市川駅行きやJR本八幡駅行きの京成バスが通っています。

## （3）人口・建物概況

### ◆人口

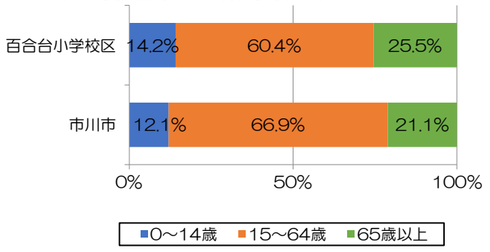
年齢別割合

| | 百合台小学校区 | 市川市 | 割合※ |
|---|---|---|---|
| 人口総数 | 11,690人 | 487,621人 | 2.4% |

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

| 平均値 | 12,503人 |
|---|---|

平均値：39地区の平均値を示しています。




地区の人口は、全地区の平均人口よりやや少ないです。また、市全体と比較すると15～64歳の割合が低く、比較的若い世代が少ない地区となっています。

### ◆建物

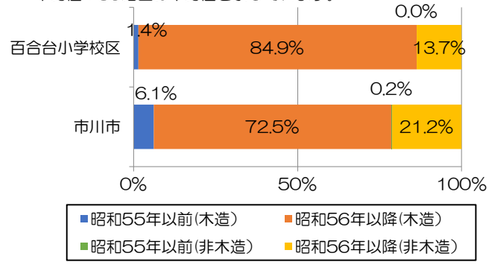
構造別割合

| | 百合台小学校区 | 市川市 | 割合※ |
|---|---|---|---|
| 建物総数 | 3,975 棟 | 114,958 棟 | 3.5% |

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合

| 平均値 | 2,948棟 |
|---|---|

平均値：39地区の平均値を示しています。



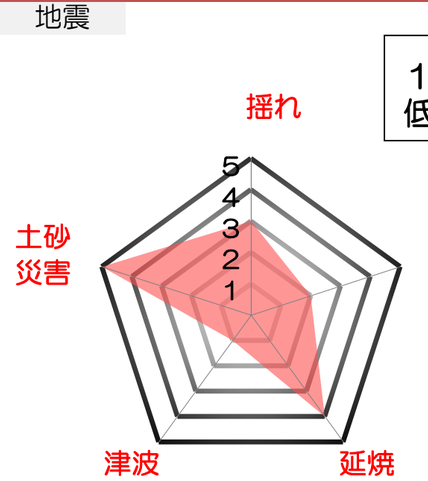

地区の建物は、全地区の平均棟数より多いです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、木造建物が多い地区となっています。

## （4）災害リスク評価

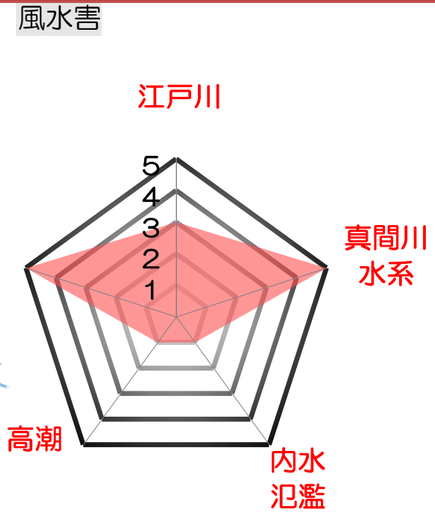
災害に対する弱み（マイナス）については、５に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、５に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現況データを用いて相対的に評価しています。なお、危険性がない場合でも１となります。

### ◆災害に対する弱み（マイナス面）

地震

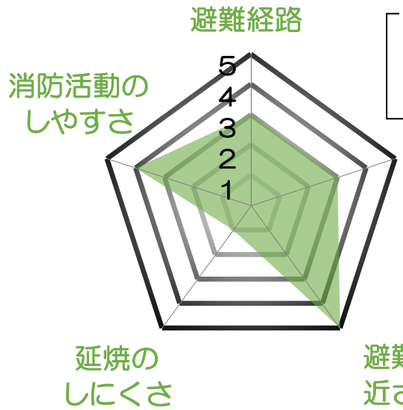



風水害

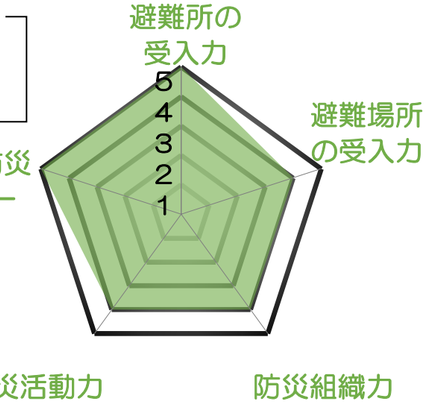



### ◆災害に対する強み（プラス面）

まちの安全性




地域の防災力




### ◆評価

百合台小学校区は、地震災害については、最大震度６弱の揺れが予測され、延焼による危険性が比較的高い傾向にあります。また、風水害については、真間川から分岐する春木川に面し、地区内を真間川が流れていることから、河川の氾濫による危険性、がけ崩れ警戒区域があることから、土砂災害による危険性が高い傾向にあります。
一方で、まちの安全性については、避難所の近さは高い傾向にあるものの、延焼のしにくさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、評価項目総じて高くなっており、避難所の受入力は、特に高い傾向にあります。

## （5）防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

| 施設名 | 福祉避難所 | 施設名 | 福祉避難所 |
|---|---|---|---|
| 百合台小学校 | － | | |
| 第三中学校 | － | | |
| 昭和学院 | － | | |
| 曽谷公民館 | ○ | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

◆避難場所

| 名称 |
|---|
| 百合台小学校 |
| 第三中学校 |
| 昭和学院 |
| 東菅野児童交通公園 |
| |
| |
| |
| |

◆地区内の主な施設

| 種別 | 施設名 | 施設名 | 種別 | 施設名 |
|---|---|---|---|---|
| 要配慮者利用施設（公設） | なし | | 医療救護所 | なし |
| | | | 関連施設 | なし |
| | | | － | |
| | | | － | |
| | | | － | |

| 要配慮者利用施設（民設） |
|---|
| 7 |

※要配慮者利用施設は浸水想定区域内に立地する施設を示していま

## （6）被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

| 想定項目 | | 百合台小学校区 | 市川市全体 |
|---|---|---|---|
| 建物被害 | 全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊） | 2.8% | 3.3% |
| | 半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊） | 15.8% | 15.6% |
| | 焼失棟数の割合 | 19.0% | 5.5% |
| | 浸水棟数（津波）の割合 | 0.0% | 1.0% |
| 人的被害 | 死者の割合 | 0.1% | 0.1% |
| | 負傷者の割合 | 7.0% | 7.3% |
| | 避難者の割合 | 1.2% | 0.9% |

◆風水害（被害を受ける割合）

| 想定項目 | | 百合台小学校区 | 市川市全体 |
|---|---|---|---|
| 建物被害 | 浸水棟数（江戸川）の割合 | 34.5% | 52.0% |
| | 浸水棟数（真間川）の割合 | 31.8% | 13.6% |
| | 浸水棟数（内水）の割合 | 0.0% | 20.5% |
| | 浸水棟数（高潮）の割合 | 0.0% | 1.5% |

市全体の結果と比較すると、地震災害については、木造建物が多いこともあり、焼失棟数の被害率は高い傾向にあります。また、人的被害については、死者及び避難者はほぼ同程度ですが、負傷者については、市全体よりやや少なくなっています。
一方で、風水害については、真間川や春木川の氾濫による影響が大きくなっており、市全体と比較して浸水棟数も多くなっています。

## （7）防災上の課題

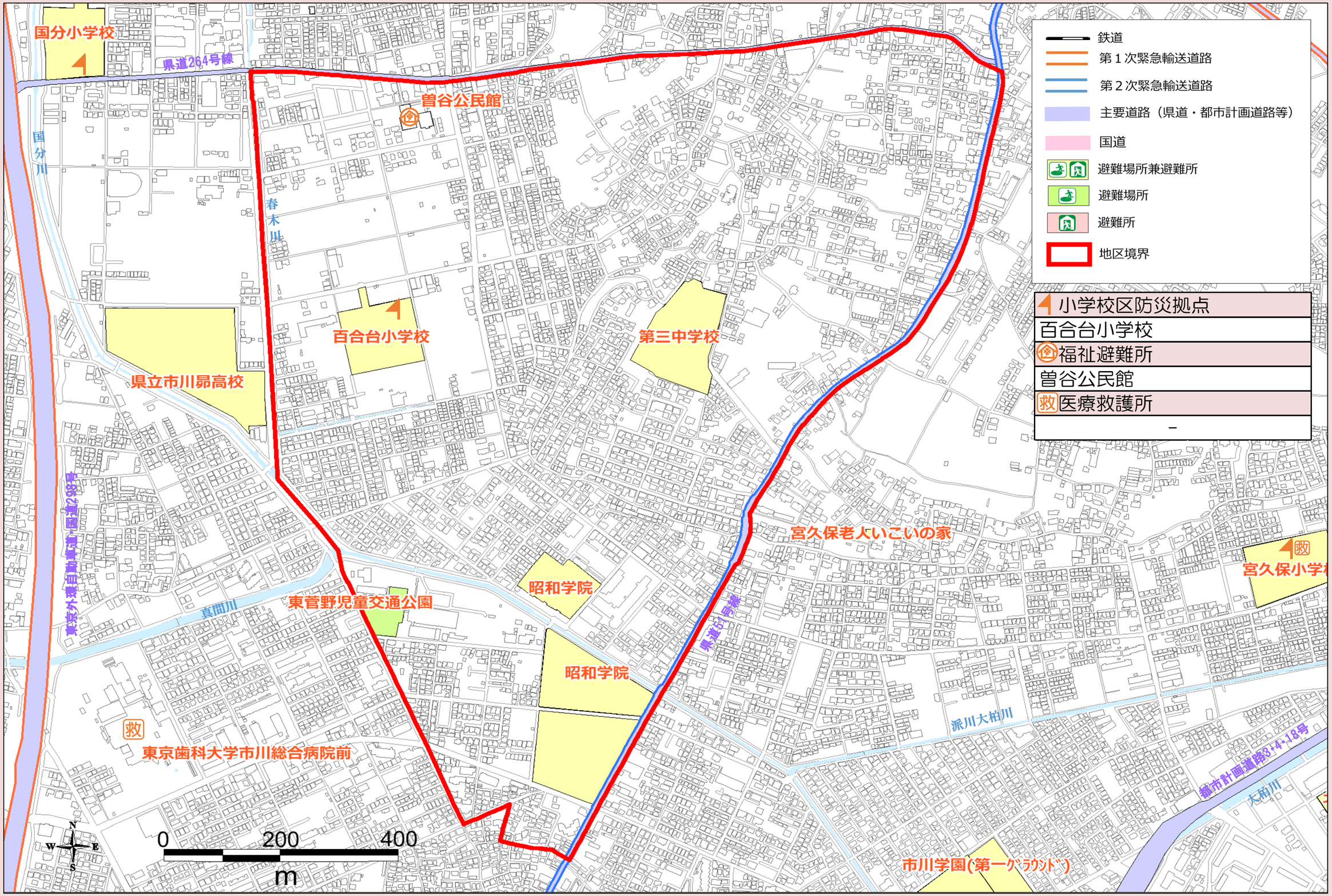
| 項目 | 課題 |
|---|---|
| 地震 | 地区全域において、震度６弱の揺れが予測され、延焼による危険性が高いことから、延焼対策等が必要です。 |
| 風水害 | 地区の西側に春木川が面し、地区内に真間川が流れていることから、浸水被害の恐れがあり、また、土砂災害の危険性もあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。 |
| まちの安全性 | 地区内には、木造建物が多く、また、延焼遮断となる空地が少ないことから初期消火の対策や延焼対策が重要です。 |
| 地域の防災力 | 地域の防災力については総じて高い傾向にありますが、近隣地区からの避難者等により、避難所や避難場所が混雑することも予測されることから、自宅での在宅避難等に備えることも重要です。 |

## （8）防災対策の方向性

| 項目 | 取組の方向性 |
|---|---|
| 地域の取組 | 災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、比較的高い防災活動力及び防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。<br>地区内にはがけ崩れ危険区域があるため、あらかじめ地域住民で危険箇所等について共有しておく必要があります。 |
| 個人の取組 | 地震に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置やガラスの飛散防災対策を行っておく必要があります。地区内では過去にも液状化による被害を受けていることから、あらかじめ減災マップ等で液状化危険度を確認しておく等の対策が必要です。<br>また、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置、土のうステーション等を利用した土のうの設置による浸水対策や、円滑に避難できるよう市からの情報収集方法や、浸水想定区域外での避難場所等をあらかじめ洪水ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。<br>地区内にはがけ崩れ危険箇所があることから、まちあるきをする等、あらかじめ危険個所を確認し、大雨時の土砂災害警戒情報の情報収集方法等を確認しておく必要があります。 |

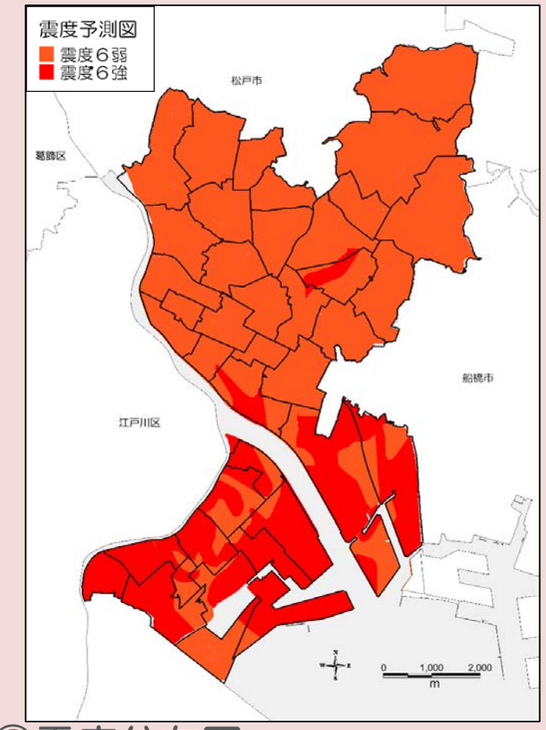
# （9）防災マップ




国分小学校
県道264号線
曽谷公民館
国分川
春木川
百合台小学校
第三中学校
県立市川昴高校
東京外環自動車道（国道298号）
真間川
東菅野児童交通公園
昭和学院
昭和学院
県道264号線
宮久保老人いこいの家
宮久保小学校
派川大柏川
都市計画道路3・4・18号
大柏川
東京歯科大学市川総合病院前
市川学園(第一グラウンド)
鉄道
第１次緊急輸送道路
第２次緊急輸送道路
主要道路（県道・都市計画道路等）
国道
避難場所兼避難所
避難場所
避難所
地区境界
小学校区防災拠点
百合台小学校
福祉避難所
曽谷公民館
医療救護所
－
N
W
E
S
0
200
400
m

# （１０）基礎資料

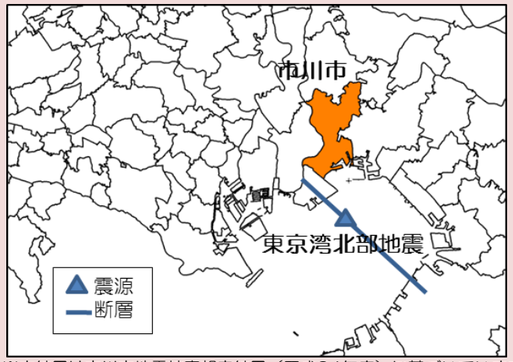
## ①市全域の震度分布図




本カルテには、東京湾北部を震源とする地震が発生した場合の結果です。
震度分布図を見ると、市の北部は震度6弱、南部は震度６強と予測されています。

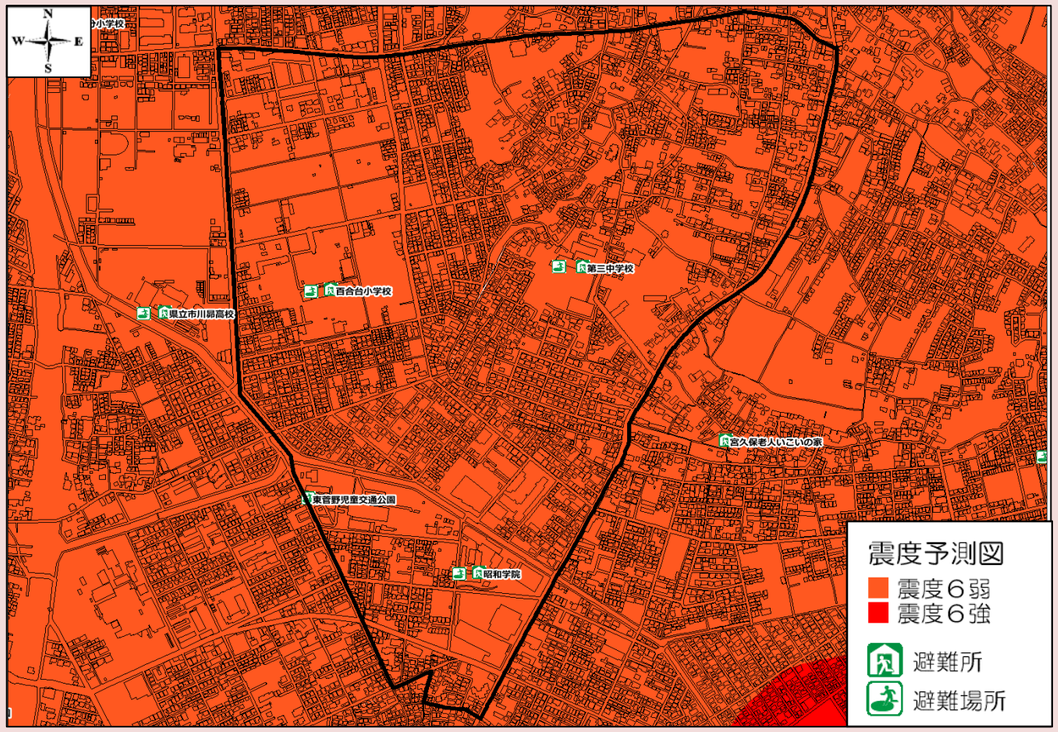
| 想定地震 | 東京湾北部地震 |
|---|---|
| マグニチュード | 7.3<br>（震源深さ：20km程度） |

▼震源

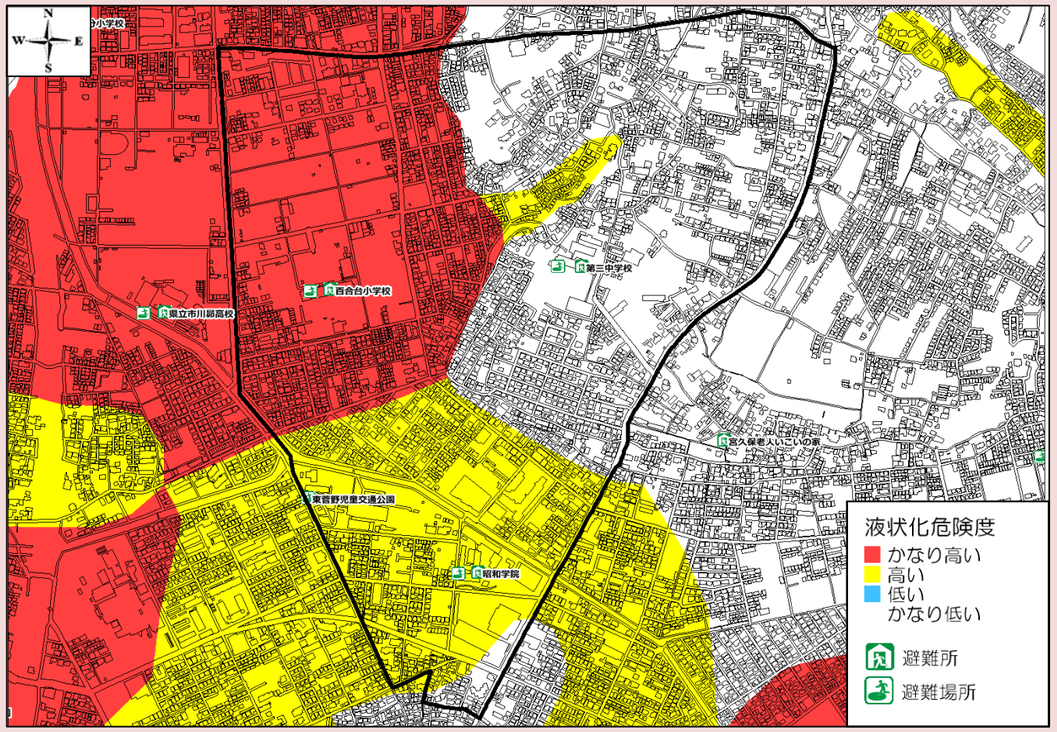



※本結果は市川市地震被害想定結果（平成24年度）に基づいています。

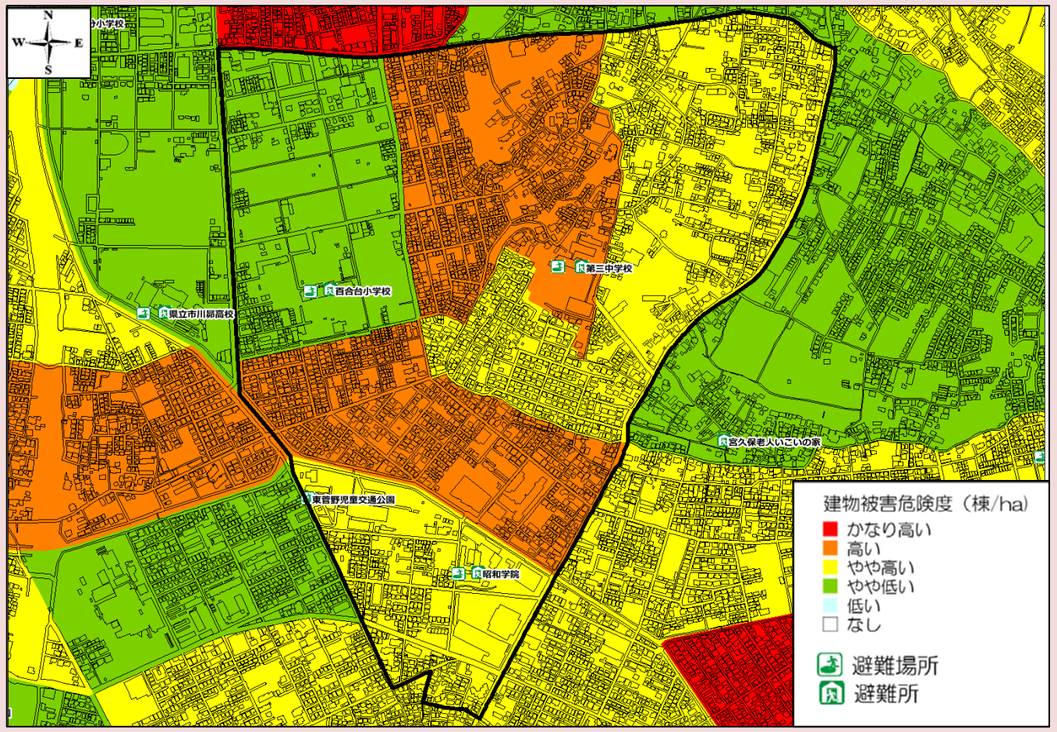
## ②震度分布図



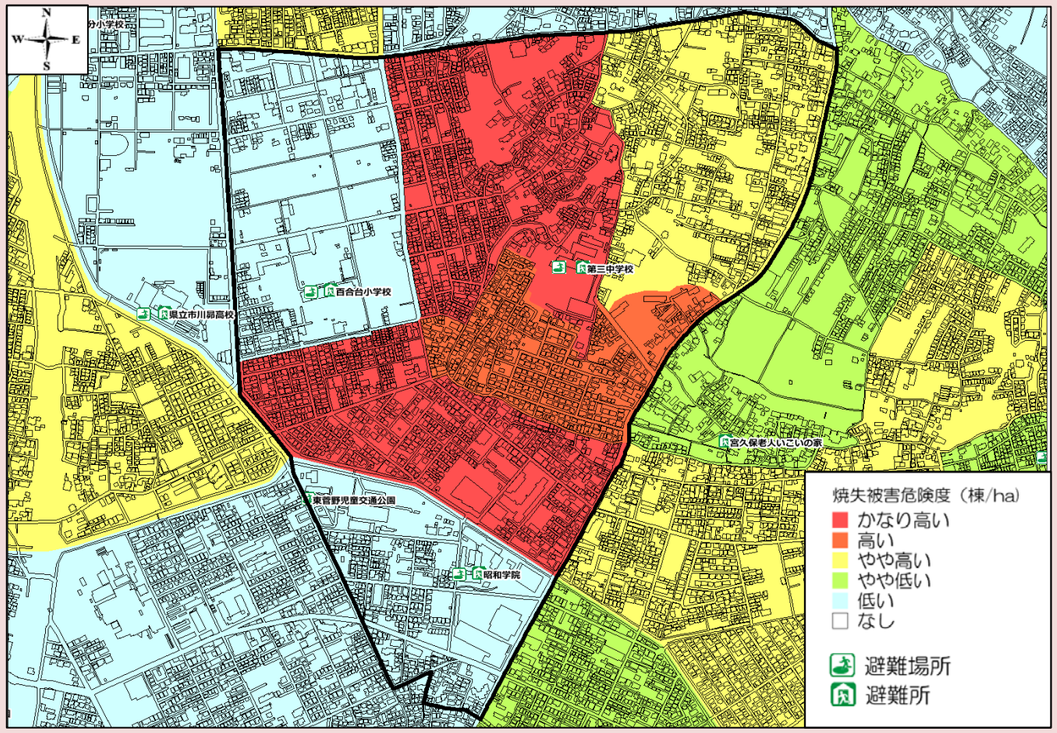

## ③液状化危険度



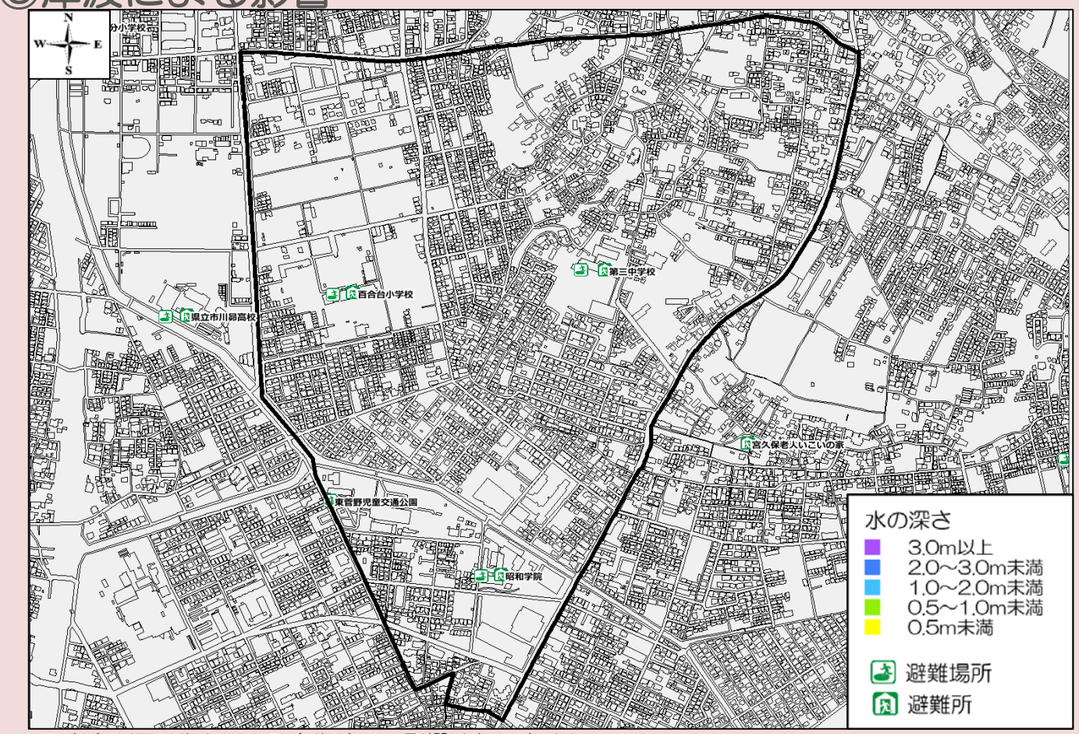

## ④建物被害（揺れ・液状化による被害）



## ⑤建物被害（延焼による被害）




## ⑥津波による影響




※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

平成24年4月：千葉県

## ⑦浸水想定の概要

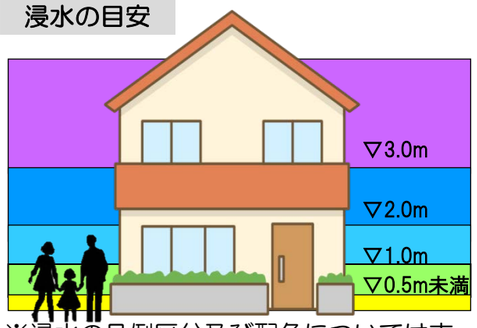
江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ近隣の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

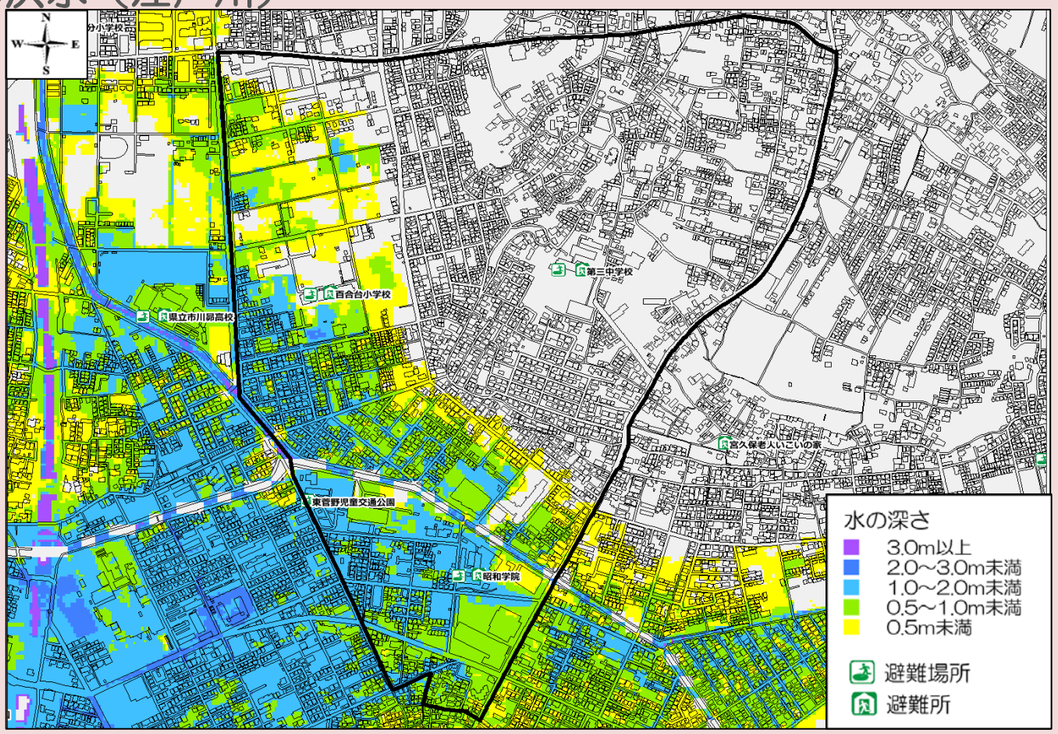
水の深さ
- 水の深さが3.0m以上
- 水の深さが2.0～3.0m未満
- 水の深さが1.0～2.0m未満
- 水の深さが0.5～1.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



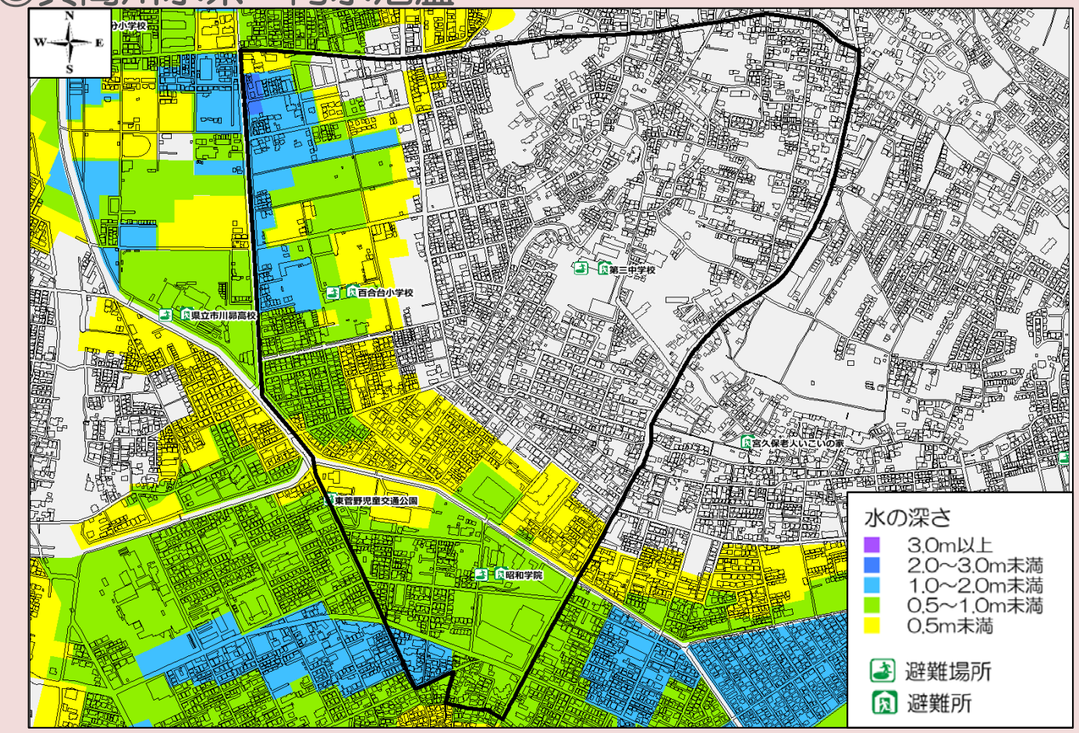

※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

## ⑧洪水（江戸川）



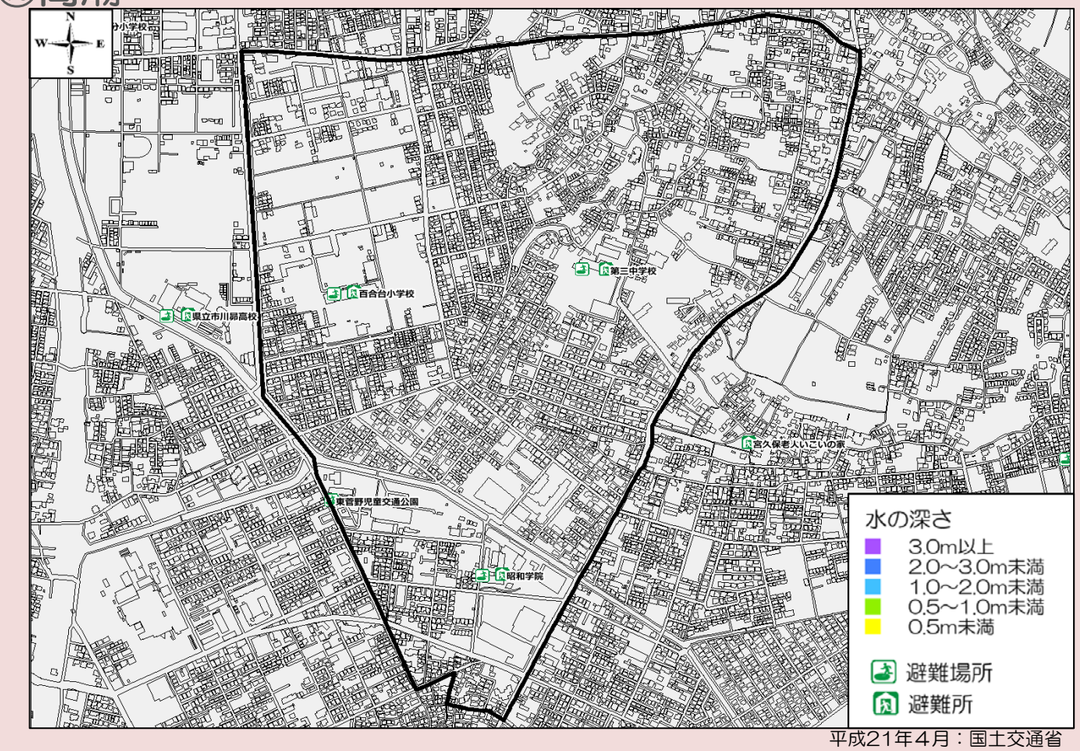

平成29年7月：国土交通省

## ⑨真間川水系・内水氾濫




平成18年３月：千葉県、市川市

## ⑩高潮




平成21年４月：国土交通省

## ◆メモ